

十二月八日は、お釈迦様がお悟りを開かれた日です。それに因んで坐禅を修行し、「道を成す」と書く成道会<sup>じょうどうえ</sup>という法要を営みます。

「何によってこの世界ができているのか？」という問いは、世界のあらゆる宗教の課題です。神様が世界をつくる宗教も、自然や世界の中に神様がいる宗教もありますが、仏教は、「縁起」によって、この世界が成り立っていると説きます。

神様を主人公とし、私たち以外の力を持った何者かがこの世界を作り、成り立たせているのではなく、人を主人公とし、この世界と私たちのあり方を、「縁起」の理<sup>ことわり</sup>から明らかにしているのです。

また、「縁起」は、私たちの悩む姿に寄り添う教えでもあります。お釈迦様は、私たちの思い通りにならないものに囚われている様子を苦しみとされ、苦しみが生じるしくみと、その苦しみを制御するあり方について、順序を追ってお示しになりました。その順序を表しているのが、「此<sup>これ</sup>があれば、彼<sup>かれ</sup>が生ずる」という縁起のあり方です。

例えば、「欲望があれば、執着が生じる」と順を追ってその成り立ちを示し、その一方で、「欲望を抑えられれば、執着しなくなる」と、苦しみを制御する道筋を明らかにされています。

ところで、何故、私たちにとって思い通りにならないものが苦しみになるのでしょうか。私たちの苦しみは、こうあってほしいという希望と、そうではない現実の間の違いから生まれます。努力を重ね乗り越えられることもありますが、どうにもならない問題も残ります。それで

## 『 禅のこころ -曹洞宗- 』

---

も、何とかならないだろうかと解決しようと努力を重ねます。

お釈迦様は、修行を重ね、私たちと同じように苦しみを実感していたからこそ、悟りに至る道を、自ら切り開かれたのではないのでしょうか。

今日、仏教があるのは、私たちと同じように苦しみに悩みながらも、お釈迦様が正しい修行をし、道を示されたお蔭です。成道会に、その道筋を振り返り、お釈迦様を偲び、改めてお釈迦様への思いを親しくする機会としていただくのも、良いのではないのでしょうか。

— 終 —